

令和2年度第1回遠野市総合計画審議会 — 議事概要 —

(開催要領)

- 1 日時 令和2年6月23(火)午後1時30分～午後3時20分
- 2 場所 あえりあ遠野 交流ホール さくら・もみじ
- 3 出席者

(1) 委員

会長	及川 増徳	一般財団法人遠野市教育文化振興財団理事長
副会長	新里 佳子	TKプロジェクト実行委員会監事
委員	臼井 悦男	遠野市社会福祉協議会会長
委員	松田 克之	遠野市消防団団長
委員	千葉 和	NPO法人遠野エコネット代表
委員	菊地セツ子	遠野市食生活改善推進員団体連絡協議会会長
委員	河野 好宣	遠野市体育協会会長
委員	佐藤 正市	遠野市民生児童委員協議会会長
委員	井手八重子	花巻農業協同組合理事
委員	濱田平八郎	遠野地方森林組合代表理事組合長
委員	三浦 芳昌	遠野市観光協会会長
委員	佐々木弘志	遠野商工会長
委員	小笠原正剛	一般社団法人遠野青年会議所理事長
委員	小向 敏夫	遠野市校長会会長
委員	藤山重理子	遠野市PTA連合会監事
委員	佐々木國允	遠野市郷土芸能協議会会長
委員	内館 充幸	遠野市区長連絡協議会会長
委員	海老 糸子	遠野市地域婦人団体協議会会長
委員	佐々木栄洋	地域づくり団体
委員	佐々木浩章	遠野テレビ
委員	備前 修	遠野市金融団
代理	菊池 タキ	遠野市わらすっこ支援委員会委員
代理	菅原 智明	県南広域振興局企画推進課特命課長
欠席	千葉 純子	一般社団法人遠野市医師会会長
欠席	沼 徳之	遠野ひまわり基金法律事務所弁護士

(2) 遠野市

市長	本田 敏秋
副市長	飛内 雅之
教育長	菊池 広親
総務企画部長	鈴木 英呂
経営管理担当部長	菊池 享
健康福祉部長	菊池 寿
子育て応援部長	佐々木一富
産業部長	中村 光一
プロジェクト担当部長	阿部 順郎
環境整備部長	奥寺 国博
市民センター所長	小向 浩人
文化振興担当部長	石田 久男
消防本部消防長	三松 丈宏
教育部長	伊藤 貴行

会計管理者	鈴木 純子
総務企画部総務課長	白岩 克己
総務企画部財政担当課長	海老 寿子
総務企画部政策担当課長	新田 正宏
総務企画部政策担当	箱石 奈央・佐々木利幸・阿部 隼人

(議事次第)

- 1 開 会
- 2 辞令交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員及び職員紹介
- 5 会長・副会長の互選
- 6 会長あいさつ
- 7 報 告
主要な施策の取組状況について
- 8 審 議
第2次遠野市総合計画後期基本計画の策定方針について
- 9 その他
次回開催日程について
- 10 閉会

(配付資料)

- 1 次第、座席表
- 2 主要な施策等の取組状況について 資料 No. 1
- 3 第2次遠野市総合計画後期基本計画策定方針策 資料 No. 2
- 4 第2次遠野市総合計画後期基本計画策定スケジュール 資料 No. 3
- 5 第2期 遠野スタイル創造・発展総合戦略
- 6 遠野市国土強靱化地域計画
- 7 遠野市総合計画審議会条例
- 8 『遠野物語』発刊110周年企画展及び新型コロナウイルス感染症対策事業のチラシ
※ 2～4は委員あてに事前配付

(議事概要)

1 開会

○鈴木総務企画部長

本日は、お忙しい中、遠野市総合計画審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、この度の委員就任にあたりましては、ご快諾を賜り誠にありがとうございます。

それではただいまから、令和2年度第1回遠野市総合計画審議会を開会します。私は、総務企画部長の鈴木英呂と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

2 辞令交付

○鈴木総務企画部長

まず始めに辞令交付を行います。委員の皆様には、今年度から、新たに3年の任期で委員をお願いすることになります。私が氏名を読み上げますので、呼ばれた委員の方は、その場でご起立をお願いいたします。(市長が各委員の前を巡回)

3 市長あいさつ

○本田敏秋遠野市長

6月も23日になる。先週金曜日、6月市議会定例会市議会が終了した。コロナ対策をはじめ、それぞれの市政課題について提案された議案がすべて活発な議論のもとに可決され、承認をいただいた。その中に、様々な市政課題が浮き彫りになった。委員の皆様には、一人一人名前を読み上げ、辞令を交付させていただいた。遠野市にとって、それぞれのリーダーであり、遠野市の活性化のため、あるいは市政運営のために大変なご協力をいただいていることを、改めて確認することができた。日頃から、市政運営に大変なるご理解とご協力をいただいていることに、改めて感謝と御礼を申し上げる。

総合計画審議会は、遠野市にとって最高位のひとつの審議会の位置づけである。これからご審議いただく内容は、まさにコロナ後ということになる。平成という時代が静かに幕を下ろし、令和も2年度になった。平成という時代を、阪神淡路大震災、東日本大震災、平成の大合併のという時代において、走り続けてきた遠野ふるさと公社も、今議会で大変な議論の下に、新たなステージに踏み出すことを決定した。遠野を取り巻く応援団の方々。遠野ならではというなかにおける、ふるさと公社の役割もしっかりと理解をしていただき、応援をするという方々がいる。議会の議決を踏まえながら、それぞれ内部手続きに入っているが、7月早々には、遠野ふるさと公社改め、株式会社遠野ふるさと商社が立ち上がることに踏み出すことができた。時代の流れ、そして新たな時代にどう向き合うかが、我々が今問われているのではないか。そこにコロナという見えないウイルスが、この仕組み、制度、決まりに悩ましい課題を突き付けている。これ乗り越えなければならない。打ち勝たなければならない。しかたがない、やむを得ないの連続だけであってはならないということを、改めて確認申し上げたい。

コロナがもたらした影響の中に、ゴールデンウィーク中の自粛という言葉の中で、あるいは外出を控えるという大きな取組の中で、限りなく落ち込み、10万人もの観光客が減少し、率にすると、昨年度と比較して90%の落ち込みとなっている。這い上がらなければならない、立ち上がらなければならない。そのような課題がまっている。国も、地方創生臨時交付金、今度は2次交付金が配分になる。市町村がしっかりと向き合えという臨時交付金が示されている。6月19日、6月市議会定例会が終わったが、役所では、関係機関団体からしっかりと意見を聞きながら、7月早々に臨時議会を開き、感染防止対策、緊急経済対策といったものをしっかりと取り組もうとういうことで、言うところの出口戦略を打ち立てることに今取り組んでいる。改めて、ご理解とご支援を申し上げます。

さて、総合計画審議会は、今般、6人の新しいメンバーが入ったが、これだけのフルメンバーでの総合計画審議会である。令和3年度を初年度とする5か年計画の後期計画を策定しなければならない。皆様の立場による、ご意見、ご提言をいただきながら、それぞれの市民の皆様のご意見も丁寧に対応しながら、後期計画は、11月までには事務的にまとめ答申をいただき、12月定例会市議会では、後期基本計画を議会の承認をいただくことに持ち込みたいと考えている。事務局から工程表の説明があるので、よろしく願います。

さらには、後期基本計画とともに、この3月にまちひとしごと総合戦略を打ち立てることができた。3月にまとめ、6つのプロジェクト、3つの横断プロジェクトを位置づけながら、ここ5年、10年を見据えての、様々な市政課題に打ち向かう、基本的な方針を位置づけたところである。災害が多発している。昨年も気象変動で大変な災害が日本列島を襲ったという事実がある。これにどう立ち向かうかということで、これからの少子高齢化、人口減少の中にあって、社会インフラをどのように強いものにもっていくかという中で、国土強靱化地域計画を定めなければならないということになっていた。地域計画を定めていれば、予算、事業を優先採択するということが国の方針であり、かなり精力的な計画策定作業を進めた。国土強靱化地域計画との整合性を図っていかなければならない。さらには、人口減少という社会にあって、貴重な財源としての地方交付税も減額するという流れにある。緊張感をもって財政計画もたてなければならない。そのような中で、健全財政もしっかりと整合性を図りながら作ろうということで対応しているところである。

明日、遠野市の、10年前の後方支援活動、沿岸被災地の命と向き合った後方支援活動。来年3月には10年になる。風化とどう向き合うか。岩手大学の斎藤教授に座長を引き受けていただいた。多くの関係者の皆様の協力をいただきながら、遠野の官民一体の後方支援活動の記憶を記録にしながら、次世代にしっかりと教訓をつなぐ委員会も立ち上げることにしている。10

年という節目の中で、災害対応にどのように向き合わなければならないのかということ、みんなで共有しながら、相互連携、市町村水平連携を立ち上げなければならないと思っている。忘れてはなりません。忘れさせてはなりません。そのような委員会を明日立ち上げることにしている。震災から10年過ぎたということ正面から受け止めながら、道半ばの沿岸被災地の皆さんともしっかりと気持ちを一つにしながら取り組んでいかなければならない。いろいろな形で、コロナが悩ましい課題を突き付けている。しかたがない、やむを得ないという中で、子どもたちの夢や希望や可能性を我々がしっかりと受け止めて、どうすればよいかということを考えていかなければならないと思っている。みんなで考えていかなければならないと思っている。

私の思いを申し上げながら、遠野市のさらなる活性化、活力を見出すために、ご協力とご支援をいただくよう重ねて申し上げてあいさつに代えさせていただきます。

4 委員及び職員紹介

○鈴木総務企画部長

本日出席の委員の皆さまは、先ほど辞令交付の中で紹介をさせていただきましたので、時間の都合上、個々のご紹介については、省略させていただきます。

出席者の名簿につきましては、お手元に配付させていただいておりますので、そちらでご確認をよろしくお願ひします。

次に、本日の配布資料について説明いたします。

*配布資料の確認。

続きまして、本日の会議日程について説明いたします。

*会議日程を説明。

5 会長・副会長の互選

○鈴木総務企画部長

それでは、次第5の会長・副会長の互選に入らせていただきます。

審議会条例第4条第1項の規定により、「審議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により選任する」こととなっております。また、第2項で「会長が会議の議長となる」こととなっております。会長が決まるまでの間、事務局の方で会議を進行させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

それでは、まずは、会長の選出について、御意見を申し上げます。

○河野好宣委員

会長には、遠野市教育文化振興財団の及川さんをお願いしたいと思ひますので、お取り計らい願ひします。

○鈴木総務企画部長

ただ今、会長を及川委員をお願いしたいとの声がありました。いかがでしょうか。

(異議なしとの声あり、拍手あり)

それでは、会長を及川委員をお願いすることに決定させていただきます。よろしくお願ひします。

続きまして、副会長の選出に入ります。御意見等をお願いします。

○海老糸子委員

副会長には、女性からとし、新里佳子委員をお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○鈴木総務企画部長

その他、ございますか。

(なしとの声あり)

ただ今、副会長に、新里佳子委員にお願いしたいとの声がありましたが、いかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

それでは、異議なしと認め、副会長に、新里委員を選任することに決しました。よろしくお願ひします。

それでは、会長は会議の議長になると定められていますので、会長に選任されました及川委員には、議長席にご移動いただきまして、ごあいさつをお願いします。

6 会長あいさつ

○鈴木総務企画部長

及川会長、お願いします。

○及川増徳会長

遠野市教育文化振興財団の及川です。遠野市総合計画審議会の会長職に推薦され、また互選もさせていただきました。10年の基本構想に基づいて、5か年の基本計画の策定に、審議会委員として関係することに責任を感じながら、24名の委員の皆様はそうそうたるメンバーである。副会長の職には、新里佳子委員が互選された。心強く思っている。かつては市役所の職員であったが退職して7年ほど経っている。いい機会をいただいたことから、皆さんとの議論の中から学びながら、会長職としての役目を果たしていきたい。よろしくお願ひ申し上げます。

7 報告

○及川増徳会長

それでは、報告に入ります。主要な施策の取組状況について、事務局説明願ひします。

(鈴木総務企画部長が資料で説明)

○及川増徳会長

ありがとうございます。今日の審議会は、この後の審議8では、総合計画の策定方針についての1件だけあります。ただいまの説明報告のあった主要な施策の取組状況について、若干の質問の時間を取りたいと思います。どなたかご質問ございませんか。

○千葉和委員

こども向け本の森構想について、これは震災復興が大きな要素だったと思う。震災となると、三陸の被災地のこどもたちを対象にするとと思うが、こども達をどのように迎え入れるかの計画が立っていれば、教えてもらいたいというのが1点目。

GIGAスクールについて、ICTの環境整備となっている。今回のような感染症、あるいは災害があった時、学校に例えば通えなくなったとき、大学で行われたようなオンライン教育に応用できるのか。

○佐々木こども本の森構想推進室長

建築家安藤忠雄先生は、東北復興のシンボルは、子どもたちの未来であるということから、この事業を進めている。市としても、震災当時は、復興拠点として震災拠点として沿岸に支援してきた。今回のプロジェクトにあたり、懇談会を設立した。懇談会には、沿岸広域局長、釜石市の教育長にも参画いただきながら、プロジェクトに様々ご意見を賜っている。どのような方法で、沿岸の子どもたちとつながっていくかというとき、沿岸の子どもたちをバスで送迎する仕組みが提案されている。様々な郊外活動で活用がされるのではないかと提案もなされている。各沿岸地域には、津波の伝承館など、メモリアル施設ができています。そのような施設と遠野と本でつながっていくということを、ワーキンググループで検討しているところである。

○伊藤教育部長

本来は4か年で整備し、授業に活用するものであったものを、コロナの影響で国では前倒し

て1年で整備するといことで、大きく方針が変わり、単年度整備ということになった。一つの要因に、仮に学校が休業となって学校に行けない場合に、授業を続けるにはということ、一つのツールとして今回整備する端末は活用はできるものと思っている。

現在、市内の児童生徒のインターネットの環境整備は8割程度である。今後、2割の環境をどうするのか。また、環境がなくても、地区センターを活用した学習など、段階的な整備をしながら、将来的には家庭で使えるように段階的に持っていきたい。

○河野好宣委員

遠野ふるさと公社の経営改革について、組織体制図の案が示されているが、REVICが重要な役割を担う遠野ふるさと商社とあるが、どのような組織で、どういうメンバーで、どういう位置づけであるかを教えてもらいたい。

○阿部プロジェクト担当部長

大きく株式会社と一般社団法人遠野ふるさと公社に分けることになる。株式会社には、REVICという組織、政府系のファンド会社になる。半官半民のファンド会社になる。全国で不良債権を抱える株式会社等の事業再建をしてきた会社である。こちらから経営人材を登用することになる。株式会社としてきっちり利益が追求できるような、地域商社機能を強化していただくことになる。ここは代表取締役社長になる。代表取締役専務を設けることにしているが、専務に、遠野ふるさと公社の副理事長、遠野市でいえば理事の職にある大里が取締役専務に就くことになっている。大里専務が遠野ふるさと公社の理事長を兼ねることになる。一般社団と株式会社に分かれているが、経営判断は一体的に行っていくことになっている。今の公社の職員は、全職員が一旦株式会社に再雇用される予定になっている。再雇用された後に、出向で一般社団に派遣されることになる。株式会社で意思決定した経営方針を、ふるさと公社側で各組織に下ろしていくことになる。ふるさと公社の従業員は、一体的な指揮命令の中で、一体的に執行することになる。社団と株式会社の違いはあるが、一体的に行うことになる。ふるさと公社を切り離すのではないかと、心配される声も聞くが、一般社団も収支の改善を図っていくことで検討している。

○河野好宣委員

REVICは半官半民と聞いた。できれば、組織概要をお示しいただかないと、どれだけ重要な責任を負ってやられるのか不安なところもあるので、次の機会に結構なお示し願いたい。

○阿部プロジェクト担当部長

市長の許可を得て、みなさまにはご説明する機会を設けたい。もともとは、リーマンショック、2008年の時に創設された会社ということで、会社再建のプロ組織である。後でご説明申し上げたい。

○及川増徳会長

ふるさと公社に残る職員は理事長と常務理事。ふるさと公社が所管する施設は、ふるさと村と水光園。職員は株式会社から出向であるが、ふるさと公社の運営が、理事長と常務理事では人数的には不足するのではと思いつつながら、ふるさと商社と一体的になっている。連携を密にしながら、ふるさと村、水光園の経営運営の方策を見出していくということになると思うが、関係性はどのようなイメージをもったらよいか。

○阿部プロジェクト部長

ふるさと公社の理事の構成は、昨日、ふるさと公社の理事会、総会を開催し、正式に決定した。理事長は大里政純氏、常務理事は佐藤正雄氏となっている。理事には、花巻農業協同組合井手八重子さんが就任されている。商工会からは菊池孝さん。もう一人、市からプロジェクト担当が理事に就任している。監事は遠野市監査委員の佐々木資光さんが就任している。一体的という話をしたが、株式会社の経営方針をぶれずに一般社団に落とし込み、経営改善をしていくことになる。

なぜ2社に分けたのかということについて、疑問を持たれると思うが、市長がよく使う例えであるが、栄養剤を投入しても効き目がない。ワクチンを投入して、理事制を敷きながら、各部門の赤字の縮小に努めてきたが、効果が薄かった。最終的には、止血をする施設、赤字を止める施設。次に、伸びるところは伸ばしていく施設。人的な構造の大手術を行いながら、株式会社として利益を追求する体質を強化する。赤字体質と言われてきたが、ふるさと村と水光園は、止血をして赤字を出さない体制にして、なおかつ利益を追求していくということを3か年でやっていくということで、2社に分けた。

○及川増徳会長

GIGAスクールについて、初めてコロナ騒動などで耳にするようになった。このような、学習の仕方がこれからは出てくると実感した。遠野市でも環境整備を進めるということで感心をしたところである。これを進めるとなると、全児童生徒ということになる。子どもたちには差があると思う。環境もあると思う。遠野テレビは、遠野を考えたとき、このような手法は地盤があると感じる。遠野テレビとの関係性、優位性を出せる遠野ではないかと思うが。

○伊藤教育部長

この事業を今年度実施し、3月から稼働するというかなり早い取組になる。これが可能になったのは、遠野テレビがあって通信インフラがあるということが大きい。他の自治体は、光ファイバー整備を先にやっていく必要があるので、時間がかかるのが一般的である。遠野テレビがあることでスピード化ができた。

今後はコンテンツが重要になってくるが、遠野テレビは番組制作のノウハウがたくさんある。それらを活用しながら、遠野ならではのコンテンツを作ることができればと思う。休業になったときに活用できるようにストックするなど、一体的に進めることのメリットがあると思う。

○及川増徳会長

委員の皆様からは何かあれば（無しの声）。これからもいろいろな場面で知りうる機会もあるかと思うが、情報をいただきながら、関心をもって支援をしていきたい、そのような立場でいる。

8 審議

○及川増徳会長

それでは、次に、次第8の「第2次遠野市総合計画後期基本計画の策定方針について」、事務局説明願います。

（新田政策担当課長が資料で説明）

○及川増徳会長

それでは、ただ今の説明について、どなたかご質問ございませんか。

○佐々木国允委員

考え方について2つ提案したい。1つは、コロナの問題で社会情勢がかなり変わっている。地球上の人口が100億人という状況に入っていく。食糧難の時期を迎えることになる。国の政策は、関係部署は3密、新しい生活の仕方のみ出ている。この前提案のように、正しい食生活の在り方からすれば、これも免疫力を高めて、健康状態を保てるとういこともあるので、2つのことを計画に入れてもらいたい。

野菜も輸入物が多い。国産もどれだけあるかは、表示をみなければ分からないくらい。安いと外国のものが入っている。自給率は世界に比べて日本は低い。世界の中で対策として、免疫力を高めることがはっきりと分かって、実施されてくれば、ますます食糧難に陥ることは目に見えている。遠野市として、遠野の農産物の状況をもう一度調査分析しながら、農産物の生産に向けた遠野市の取組を考え、県、国の取組としていかないと、日本の食糧難が解決していかない、そのような問題点に陥ることがこの先に予測される。

健康寿命で言えばよいか、何度も話をしているが、ヘルスプロモーション、元臨床医師のサトウカズコという医師が、国のナンバーワンの病院で勤務してからは、がんや心臓病の手術をしてから、回復が早くなったということが実際にある。食と睡眠で改善されている例が1,000例以上ある。高血圧は、肥満や高血圧になる。糖尿病は予防もできるし改善もできる病気であるということがはっきりしている。病院の食事では治らない病気である。食品分析表を用いて、糖尿病に対する栄養分析をしてみると、栄養分が足りないということがはっきりしている。とかく人は、弱くなれば医者ということを知っている。市では健康診断をやっているが、血圧が高い、糖尿病など色々あると思うが、食生活の分析をしてみれば、何が足りて何が足りないか、ミラーという食品分析表があるので、活用していけば、薬を飲まない人が増えるともう。

福島県浪江町で600万円の経費が節減された実践例もある。盛岡で2回講演会が開催されている。盛岡のサンセールで開催した講演会に、市の職員も参加しているが、その後のアクションは何もない。一人でも多くの方が健康で豊かな暮らしができればいいと感じていて、このようなことを知っていて言わないのは、罪の意識を感じるので申し上げている。

コロナになぜかかるかは、インフルエンザや花粉症にかかった人は気をつけなければならない。人間の体には、生後一年以内にEBウイルスというウイルスが体に入り込んでいる。体調が崩れると、それによって色々なウイルスが増殖して色々な症状、病気になるということがはっきりしている。義務教育の中で体の仕組みを教えるとか、いつ何をどのように食べたらよいかという指導があればよい。コロナ禍で不安な生活を続けるということはないのではないかなと思う。煙草を吸われる方は、1本吸っただけで、25mgのビタミンCが破壊される。1日に50mgぐらい必要なので、100gのミカンで30mgのビタミンCが摂れるので、がんばってビタミンCを補給しなければならない。ビタミンCだけを摂ればよいのではなく、タンパク質を構成するには、カリウムが必要だとか、鉄分を吸収するにはビタミンCが必要だとか、栄養のバランスが必要である。

ミラーの分析表を遠野市として導入して、活用することが、病気にならなくてもよい人、治りたいという人の道がはっきり開けるといえることが分かっているので、導入を検討してもらいたい。

○及川増徳会長

人生100年。健康でいたいものだと思う。策定にあたってのポイント、視点について具体的な事項について発言があった。市からはまとめてコメントいただければと思う。その他、委員の皆様から質問があれば。

○千葉和委員

実施計画の3か年のローリングとは何か教えてもらいたい。策定の考え方でコロナが出たが、コロナの関係で、東京で働いている人の話を聞くと、会社に行けず、2か月ぐらい事務所にいかないで、事務所は1か月70万円もすることから、事務所を閉鎖する企業もあると聞く。長い期間をかけて、一極集中から地方にIT企業が分散してくると思う。考え方の中に、withコロナの関係を見据えて、遠野として何かトライしていくことができれば。どっこちらでも問題はあろうと思うが。空き家も良い状態のものもなくなっているのだから、移住して、会社とリモートで働く人が増えてくると思うので、考え方として入れてみてはどうかという意見である。

○及川増徳会長

2点質問があったが、1点目のローリングについてお答えいただきたい。

○新田政策担当課長

3年のローリングは、今年度は、令和2～4年の3年間の計画を作り、来年度は、3～5年の3年の計画を作るというように、それぞれ3年の計画を見直しながら策定していくことを指している。

○千葉和委員

後期基本計画は5年間を決めて、実施計画はその都度毎年変更していくということか。

○新田政策担当課長

そのようになる。

○及川増徳会長

基本計画は5年分の計画を立てて、年度毎に何をやるかは、ローリングで定めていく。令和3年度分を示すのではなく、3年分を来年度は示す。毎年3年分ずつを示していく、ローリングしていくということで理解した。

主に、策定にあたっての視点にはなる。具体的には分野別の計画が示されてから、ご意見が出て来るかと思うが。皆さんからはよろしいでしょうか。

先ほどの国允委員と千葉委員から出された内容について、コメントをお願いします。

○菊池健康福祉部長

先ほど佐々木委員からのご質問について、総合計画の第2章のところ、大綱2に掲げる、健やかに人が輝くまちづくりの中で、健康づくりの延伸を掲げている。その中で、ICTの健康づくりなどを実践し、健康づくりの延伸を進めるなかで、運動、食事、睡眠の3大要素が重要であるとなっている。これら3つをセットにしていく健康づくりを進めていくという方針できた。前期の計画を検証しながら、遠野市の、特に食生活のご意見でしたので、その辺を意識して、地域の健康づくりのサポーター、保健推進委員など、各地域で食生活の推進も進めているので、関係者と連携しながら食生活の正しい普及、周知を進めていきたい。

○佐々木国允委員

いつ、何をどのように食べるかということが大事である。大体1カ月くらいで置き換わっている。睡眠をすれば、コロナにかからないといわれても、2週間後ぐらいしか現れない。一か月で体が入れ替わるということになる。そのようなことははっきり分かっている。レシピも分かっている。どのように作ればよいか、栄養素も分かっている。市で導入してやればよいと思うのは、食生活分析表のミラーというソフトを導入すればよい。それを展開していく事業が大事である。講演会を開いて、良いということが分かっても、みんながやるかといえば、やらないかと思う。体に対しての害は薬である。健康な生活を取り戻すために、分かっている方向で進めるべきであるということを言いたい。結果を捉えて、指導するきっかけがあつて、健康寿命に向くような取組があればよいと思う。具体的にやるかやらないかである。健康寿命を延ばすかは血管が大事。一番の問題は油である。油の取り方で健康寿命は変わってくる。えごま油が一番いい油。次はバターである。

○及川増徳会長

神経は使いながら気にはしている。意見として当局では参考にしてもらいたい。千葉委員から地方移住の話が出たが。

○中村産業部長

で・くらす遠野市民制度での取組と、貸出できる空き家が少なくなっているという話があった。コロナ禍の中で、コロナ影響を見据えて移住定住の中に反映させたらよいのではないかというご意見であったと思う。東京などでは、テレワークや、サテライトの取組が進められている。そのような取組を、で・くらす遠野の中で考えなければならないが、コロナの影響は先週緩和されて遠野にも観光客が戻ってきている状況にある。テレワークやサテライトオフィスなど、新しい働き方の形が、コロナの影響が大きくなっていくのか収束に向かっていくのかを見据えながら、取り入れられるところは取り入れたいと思っている。

遠野市としてのICTに対応して、高校生の就職ガイダンスでは、ICTを使い、企業と高校生を結んで相談会を開催するなど、知見を積み上げてきている。コロナの影響を見ながら、取り込めるところは取り込んでいきたい。

○及川増徳会長

そのほかには何か。

○三浦芳昌委員

5年ぐらい教育委員をさせていただいた。最近遠野テレビで小学校を見ると、児童の数が少子化で減ってきていると感じる。令和3年度から7年度の中で、小学校の統廃合を真剣に考えなければならない時期に来ていると思う。教育委員をやっているときは、中学校を統廃合した。運動会もままならない状況の中で、小学校の教育に良いのかと感じるところである。一人1台のパソコンの配備も大事だが、そろそろ真剣に考えなければならない時期に来ているのではないかと思う。郷土芸能も人がいない中でやってきている。子どもたちにも何が必要か、中学校はまだしも、小学校はそのような時期に来ていると思うが。

○及川増徳会長

委員の中から発言があれば。

○佐々木国允委員

遠野まつりも中止になった。郷土芸能は何かということは今考えている。7月8日に役員会を招集して考えるところである。何か良い知恵があれば教えていただきたい。

○及川増徳会長

他にはどなたか（発言者無し）。それでは質問は打ち切りとさせていただき、先ほどの三浦委員の質問に対して、教育長からお願いします。

○菊池広親教育長

出生数は昨年度130人を切っている状況にある。6年後には130を切る児童数になるというのが抱えているところ。今後論点になってくると思うが、統合という言葉になると、賛否両論がでてくると思う。ICTは遠隔授業というのものもある。教育がどういう風に移っていくか、動向を見据えながら、総合的に考えていくことが出てくると思う。中学校統合の時は社会性を培うということが大きな論点となった。それで8校が3校になったという経緯がある。小学校の問題を考えると、児童、保護者を中心に考えるわけだが、多くの視点を見据えううえで判断していく必要があると思う。

○及川増徳会長

なければ審議は閉じたいと思う。

9 その他

○及川増徳会長

それでは次第の9、その他について事務局からお願いします。

○鈴木総務企画部長

次回の審議会は、8月6日を予定しております。詳細は、改めてご案内いたしますので、よろしく申し上げます。

○及川増徳会長

以上で議長の役目は終え、これで席に戻りたいと思う。最初に話すべきであったが、臼井悦男委員には、長いこと審議会の会長職を務めていただき、構想と基本計画をまとめていただいた。その労を心から労いたいと思う。それを引き継いでの会長職であるが、臼井会長にはお力添えをいただいて会長職を務めていきたい。以上で議長の務めは終わらせていただく。

○鈴木総務企画部長

それではここで市長からご挨拶を申し上げます。

○本田敏秋市長

及川委員が会長に、新里委員が副会長に選任された。前期基本計画では臼井会長に陣頭指揮をとっていただいた。改めて感謝と御礼を申し上げる。新たな5年に引き続き、ご支援をいただければと思う。取組状況について報告をさせていただいた。このほかにも、沢山の市政課題がある。産業振興、三セクの見直し、いろいろな形で、時代は新たなステージを求めている。人口減少、少子高齢化、縮小社会の中であってどのような仕組みを立ち上げるのか。あるいは、今までの取組をどのように第2ステージにもっていくのかという部分が、我々市町村に問われているのではないかと考えている。国は、県がと言っているのは申し上げるまでもない。連携を図りながらやっていかなければならない。バランスを取りながら、遠野市のまちづくりを、道を誤らないように進めていかなければならない。わらすつこ基金、条例、プランの3本セット。子育てするなら遠野を標榜しながら取り組んできているが、10年の歩みの中でたどりついた。少子化に歯止めはかかっている。これまでの5年間の出生数を振り返れば130人から140人。10年前は180人から200人という数字であった。少子化の波はかなり深刻なものとしてあるのではないかと考える。どう向き合うかを考えていかなければならない。三セクをはじめ、各機関団体の見直しなり、様々なステージづくりをしていかなければならない。委員の皆様には、それぞれの視点の中からは、ご協力とご理解をいただければということをお願いしたい。色々な取組状況について、各委員から建設的な意見・提言が出された。及川会長にも第1回の会議を仕切っていただいた。みんなで気持ちを一つにして、市内外に発揮したいと思っている。よろしくお願い申し上げます、第1回の御礼にさせていただきます。

10 閉会

○鈴木総務企画部長

以上を持ちまして、令和2年度第1回総合計画審議会を終了する。